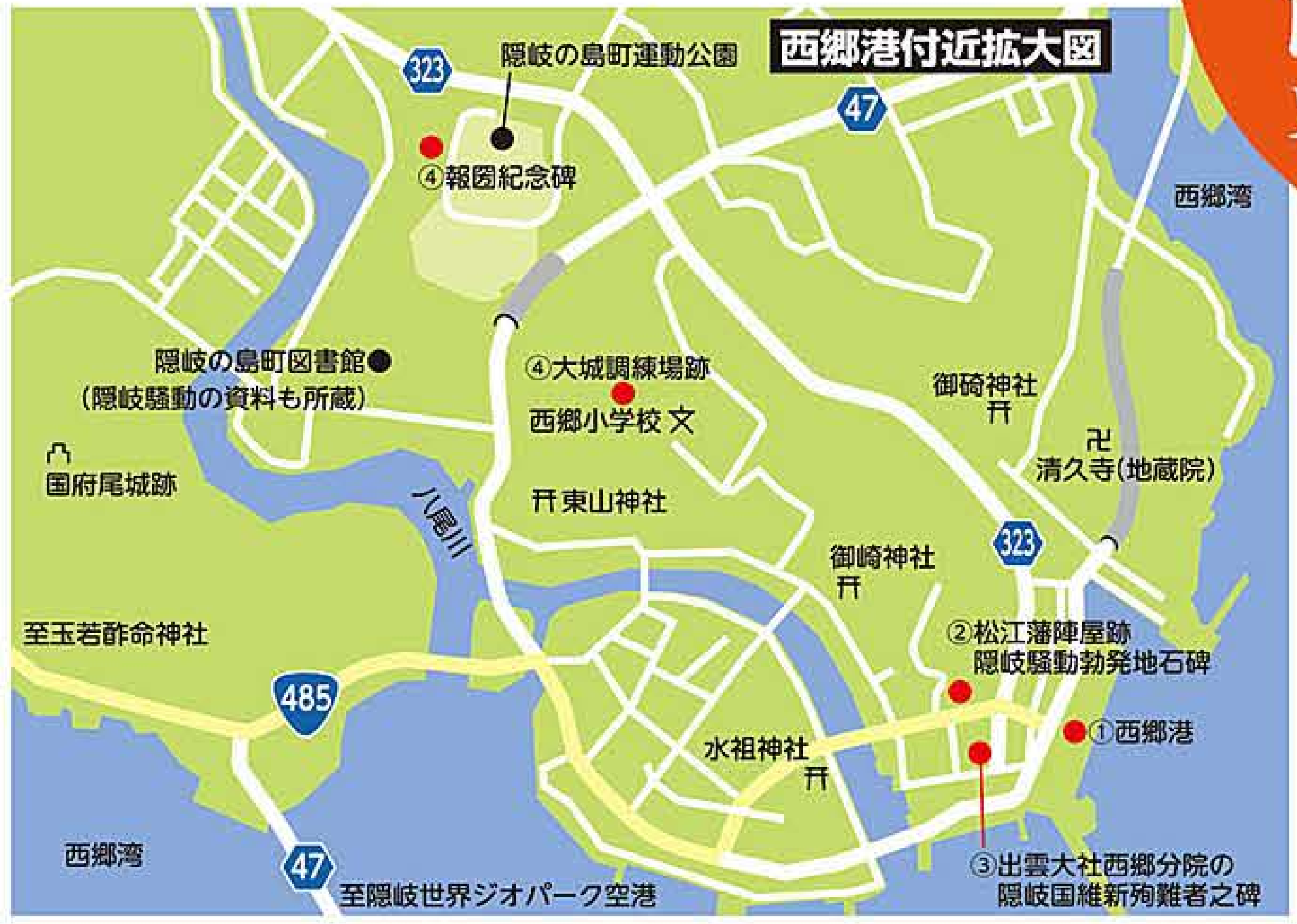
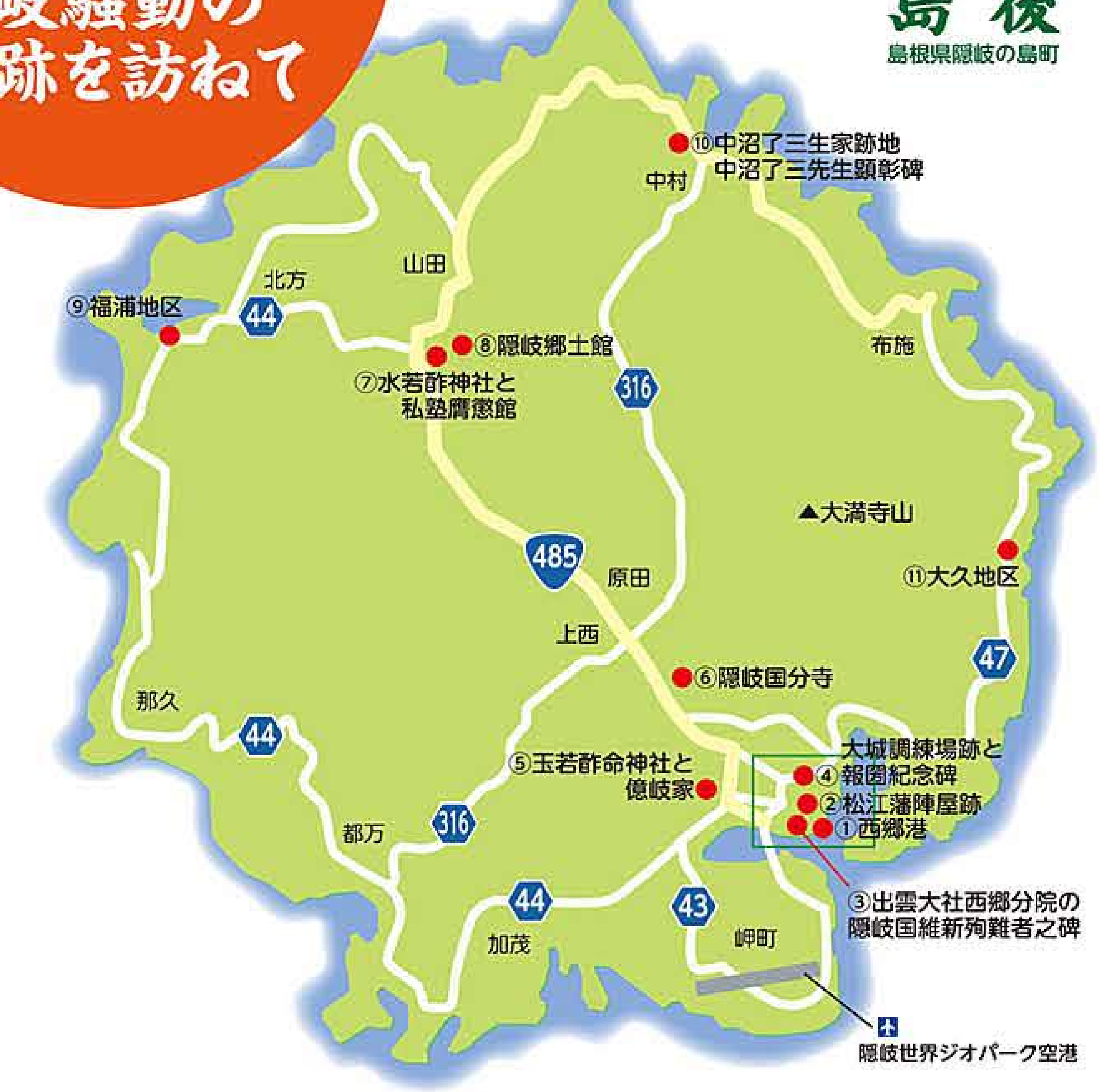
隠岐の島の島民
3000余名による
優しい革命

隠岐騒動

企画・発行／150 隠岐維新を次世代に伝える会

隠岐騒動の史跡を訪ねて





①西郷港

江戸時代から昭和初期まで北前船の風待港として栄えた天然の良港。当時、松江藩の陣屋の前は海岸となっていて、郡代追放の舞台となった。

西郷湾（明治時代末頃の絵はがき）

②松江藩陣屋跡

「陣屋」は、松江藩が隠岐を治めるための役所で、郡代などの役人が松江から 2 年任期で派遣されていた。慶応 4 年(1868 年)3月19日、島内各地から集まった 3000 人余りの島民が陣屋を囲んで明け渡しを求め、郡代は追放となった。その後、島民による自治組織や学問所の立教館が置かれ、80日間の自治の拠点となった。

隠岐騒動勃発地石碑

③出雲大社西郷分院の隠岐国維新殉難者之碑

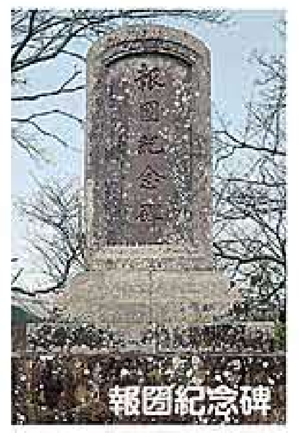
慶応4年(1868年) 5月10日に松江藩兵が陣屋を奪い返す際に命を奪われた。14名の慰霊は、出雲大社西郷分院が長年行ってきた。隠岐騒動から150年後の平成 30 年 (2018 年)6月23日(旧5月10日)に「隠岐国維新殉難者之碑」が建てられ、殉難者の子孫の参列のもと慰霊祭が行われた。

隠岐国維新殉難者之碑

隠岐国分寺

④大城調練場跡と報圀紀念碑

西郷小学校付近は幕末より調練場と呼ばれ、外国船に備える松江藩兵や文久 3 年（1863 年）に定められた農兵隊の武術練習の場となった。また、隠岐騒動では島内 3000 人余りが集合した場所でもある。町民グラウンド駐車場近くに「報圀紀念碑」がある。明治29年(1896年)に建てられ、昭和 31年ごろに現在地に移転された。慶応 4年(1868年)5月に陣屋を奪い返す松江藩の兵により命を奪われた14名の同志や日清戦争までの戦死者を祀っている。平成 30 年(2018 年) 6月 23日(旧 5月10日）に「隠岐國維新殉難者百五十年祭」が行われた。


報圀紀念碑

⑤玉若酢命神社と億岐家

慶応４年(1868年)5月11日、陣屋を奪い返した松江藩の兵は、玉若酢命神社宮司の億岐家を襲った。松江藩の力を示すためにつけられた大黒柱の刀傷、戸板の銃弾の跡が生々しく残っている。億岐家宝物殿には、西依成斎(山崎闇斎学派の儒学者）の関係資料が展示されている。

億岐家住宅

大黒柱の刀傷

戸板の銃弾跡

⑥隠岐国分寺

明治政府からの隠岐公文（村役人の庄屋のこと）あての手紙（山陰道鎮撫使公翰）を松江藩の役人が無断で開封した事件の後の慶応4年(1868年) 3月15日、島後48か村の庄屋が国分寺に集まり庄屋大会が開かれた。松江藩の郡代追放を主張する同志派の「正義党」と、それに反対する「出雲党」に分かれ議論を重ねた。

⑦水若酢神社と私塾膺懲館

隠岐騒動指揮役の忌部正弘は、隠岐一宮である水若酢神社の宮司であった。正弘は、京都の中沼了三に学んだ中西毅男とともに、神社境内に私塾膺懲館を開き、学問を教えた。この塾で多くの若者が学び、隠岐騒動の中心的役割を果たした。

水若酢神社

私塾膺懲館跡の石碑

⑧隠岐郷土館

松江藩陣屋跡へ明治18年(1885年)に建てられた隠岐を管轄する島根県の郡役所で「旧周吉外三郡役所庁舎」と呼ばれる。この時代を代表する擬洋風建築で島根県指定有形文化財である。後に島根県の隠岐島庁や隠岐支庁として使用され、昭和45年（1970年）に現在地に移築された。現在は、民俗資料や隠岐騒動等の資料を展示する準博物館として活用されている。

隠岐郷土館

大久海岸

⑨福浦地区

廻船業が盛んだった福浦地区は、西郷の松江藩陣屋から離れており松江藩に気づかれにくい港であった。同志派はこれを利用して京都や浜田などを行き来した。ここは、同志派が宿としたり会議を開いたりなど、拠点の一つでもあった。

福浦湾（明治時代末頃の絵はがき）

⑩中沼了三生家跡地　中沼了三先生顕彰碑

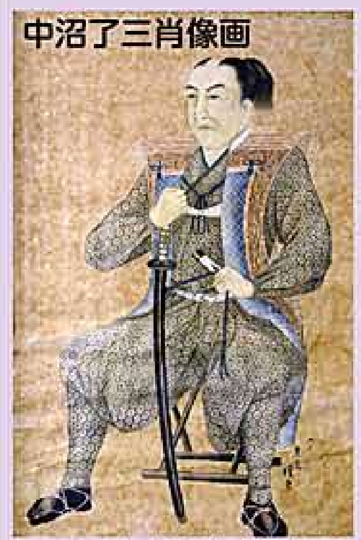
中沼家は屋号を「屋敷」といい、代々医者を営む旧家であった。現在、家の建物はなくなったが、敷地には了三の祖母「うら」が建てた「一石一字碑」が残っている。昭和51年(1976年)には、中沼了三先生顕彰会により「中沼了三先生顕彰碑」が建てられた。了三が創設に関わった十津川村の文武館は、現在は奈良県立十津川高等学校となり、修学旅行で毎年生徒らがこの地を訪れ、了三先生の遺徳を偲んでいる。

中沼了三先生顕彰碑

⑪大久地区

嘉永6年(1853年)に大久村の沖合に外国船が接近し、島じゅうが緊張した。大久村庄屋の齋藤村之助は、文武館設置の二回目の嘆願を行った。また、山陰道鎮撫使公翰の無断開封事件では、隠岐の庄屋の代表として松江藩との交渉にあたった。さらに、自治組織では兵糧方頭取を務めた。なお、同家の古文書は現在島根県立図書館に所蔵されている。

隠岐騒動の思想的指導者　中沼了三


中沼了三肖像画

中沼了三 (1816－1896)

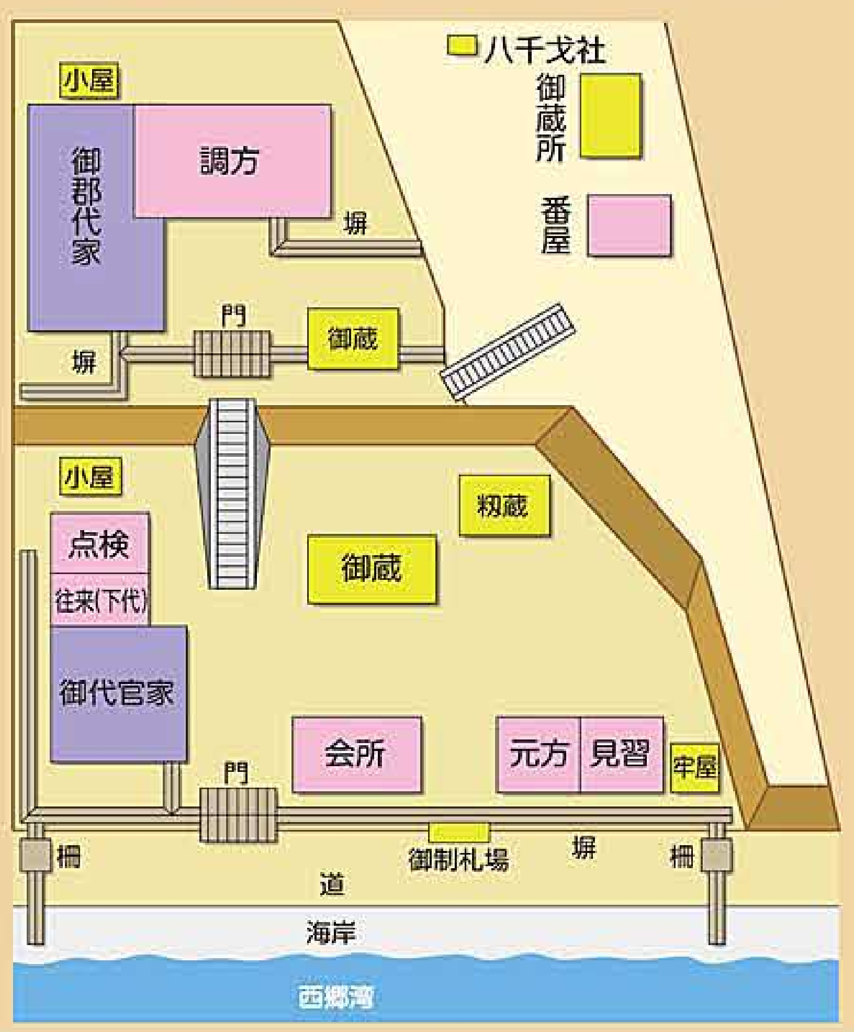
中村の医者・中沼養碩の三男として生まれた。天保 6年 (1835年)、20歳で京都に上り、儒学者・鈴木遺音に学ぶ。烏丸竹屋町に私塾を開き、西郷従道、桐野利秋、中岡慎太郎など多くの明治維新の志士を育てた。学習院の儒官を務め、元治元年 (1864年) には朝廷の命により、勤王の地・十津川に文武館を開校した。隠岐の井上鰲介、中西毅男らが了三に学び、隠岐騒動に大きく影響した。鳥羽・伏見の戦いでは、征討大将軍仁和寺宮のもとで参謀となり、和歌山城接収、大和国平定など活躍した。明治新政府の参与となり、東京に移ってからは明治天皇の侍講や昌平学校の教授を務めた。しかし、新政府では政治思想の違いから、明治３年 (1870年) に辞表を提出した。明治５年 (1872年) には侍講の職と正五位の位も返上させられた。東京を去ると、京都東山に私塾を開き、明治15年 (1882年) には滋賀県大津に湖南学舎を開いた。明治29年(1896年)、京都浄土寺村にて81歳で亡くなった。

現在、京都烏丸の学舎跡には「中沼了三先生講書之所」と刻まれた碑があり、銀閣寺近くには屋敷跡、安楽寺には了三と妻くらの墓がある。写真は、鳥羽・伏見の戦いにおいて参謀を務めた様子を描いたものであり、「赤心報国」と刻まれた太刀を持っている。

松江藩陣屋略図

（『御役所敷地周辺絵図』等より）

陣屋は、崖などの険しい地形を生かし周囲を塀や柵などで防御を固め、内部には役所や土蔵、西郷湾を出入りする船の監視施設など多くの建物が並んでいた。道に面した御制札場には幕府や松江藩からのお触れを掲げていた。郡代退去後の島民の自治組織は、陣屋の建物を利用した。



自治組織の役割

（『隠岐島誌』より）

総会所頭取
兼算用衆
会議所
周旋方
文事頭取
軍事方頭取
撃剣頭取
武具方
兵糧方
同世話方
算用調方
廻船方頭取
三町壮士附添
記録方
直用掛
警衛頭取
目付役

■隠岐騒動に親しむ本

〈小説〉

『島燃ゆ　隠岐騒動』　松本侑子著　光文社文庫 2016
『狗賓童子の島』　飯嶋和一著　小学館 2015

〈ノンフィクション〉

『隠岐共和国ふたたび「隠岐学セミナー」での出会い』
牧尾実著　論創社 2008

島燃ゆ
隠岐騒動
松本侑子

■隠岐騒動を調べる本

『隠岐島コミューン伝説』　松本健一著　辺境社 2007
『隠岐島誌』　隠岐島誌編纂係　臨川書店 1987
『日本庶民生活史料集成』第13巻「隠岐騒動」　三一書房 1970
『浪華異聞・大潮余談』　森田康夫著　和泉書院 1996
『もう一つの明治維新　中沼了三と隠岐騒動』
中沼郁・齋藤公子　創風社 1991
『中沼了三伝』　中沼郁著　ハーベスト出版 2016
漫画『中沼了三』　岩田廉太郎・寺西竜也
150 隠岐維新を次世代に伝える会 2018

隠岐騒動の中心的指導者たち

井上鰲介 (1836－1924)

加茂村庄屋の井上権之丞の子として生まれる。京へ上り、中沼了三に儒学を学ぶ。慶応３年(1867年)、文武館設置嘆願書を中西毅男らと作成した。また、郡代追放の時には全村あての檄文を作成するなど、文才を生かして活躍した。自治組織では中西毅男とともに総会所の文事頭取を務めた。事件後は、境港の池淵玄達に学んで漢方医となり、疫病などがたびたび発生した隠岐で島民の治療にあたった。

中西毅男 (1834－1883)

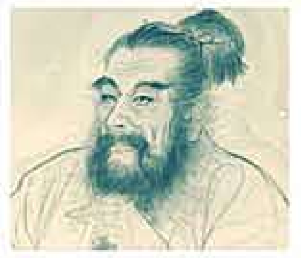
山田村庄屋の中西喜六の子として生まれ、中西貞二郎の養子となる。京に上って中沼了三に学び、隠岐に帰って私塾「膺懲館」を開き、子弟の教育にあたった。文武館設置嘆願書にも署名した。郡代追放後の自治組織では、井上鰲介とともに総会所の文事頭取を務めた。事件後は、神職や小学校教員などを務めた。

横地官三郎 (1838－1908)

上西村の庄屋を務め、文武館設置嘆願書にも署名した。慶応４年（1868 年）の庄屋大会後は横地宅が正義党の拠点となった。総指揮役の忌部正弘のもとで陣屋の松江藩役人と交渉を行い、郡代追放を成功させた。自治組織では、総会所の軍事方頭取を務めた。事件後は、懲役刑として岬地区の開墾を命ぜられた。その後、東京で漢学を教えた後、広島で亡くなった。

忌部正弘 (1830－1904)

水若酢神社の宮司を代々務める家に生まれた。慶応３年(1867年)の文武館設置嘆願書にも署名した。慶応 4年(1868 年)の郡代追放では総指揮役を務め、追放を成功させた。自治組織では、会議所の4長老の1人を務めた。5月10日の松江藩の反撃の際には、武器の使用を禁じ、退却を命じた。



隠岐騒動　年表

和暦	西暦		主なできごと
天保14年	1843		京都で儒学を学んだ中沼了三、恩師・鈴木遺音 (山崎闇斎学派) の死後、京都烏丸に私塾を開き西郷従道ら維新志士を育てる。隠岐の若者も上京し入門した。
嘉永６年	1853	**6月**	**米国のペリー艦隊が浦賀に来航。** この頃、隠岐沿岸にも外国船が現れ、上陸するなどしていた。松江藩は「唐船番」の強化など対応に追われた。
元治元年	1864	4月	鳥取藩は、朝廷の命により隠岐島調査を行う。 異国船が西郷港入港、鳥取藩の景山龍造が検分する。
		5月	中沼了三、十津川に文武館を創設し、『大学』の三綱領を講義する。
		6月	**京都・池田屋事件。７月　京都・禁門の変。**
慶応元年	1865	12月	西郷で米問屋打ちこわしが起きる。(以前より疫病、凶作、米相場の高騰が続く)
慶応３年	1867		中沼了三に学んでいた中西毅男が京都より帰国し、井上鰲介ら同志と「文武館」の設置を松江藩に嘆願することを決める。
		5月	松江藩は「農兵隊」による暴動を恐れ農民が武器を持つことを禁止する。(武芸差留)
		5月	同志らは「文武館設置嘆願書」を陣屋の郡代・山郡宇右衛門へ提出するも却下される。
		6月	嘆願書を再提出するも却下される。
		10月	**大政奉還。　12 月　王政復古の大号令。**
		12月	安部運平が松江へ行き 3 度目の嘆願書を松江藩へ提出するが、却下される。
慶応４年 (明治元年)	1868	１月３日	鳥羽·伏見の戦い。中沼了三、参謀となり新政府軍に従軍する。
		2月3日	忌部正弘、中西毅男、井上鰲介ら11人、密かに脱島。 (天候が悪く11日まで風待ちする)
		2月13日	浜田沖で嵐にあい浜田外浦へ漂着。 浜田藩を占領中の長州藩士に取り調べを受ける。
		2月26日	齋藤村之助らを松江藩へ派遣。新政府の山陰道鎮撫使公翰を松江藩が無断開封したことを知る。(公翰には隠岐が松江藩預から朝廷御領となったことが書かれていた)
		3月9日	忌部正弘ら 11 人福浦に到着。福浦の藤田家で同志らと相談。 吉岡倭文麿が鎮撫使公翰開封事件を報告。
		3月15日	国分寺での庄屋大会。松江藩の郡代追放を主張する同志派を「正義党」、反対する者を「出雲党」と呼ぶ。
		3月15～18日	横地官三郎宅で正義党同志約 100 人が会議。 長老も含め議論し、郡代追放を決定。全村へ檄文を回し、島民の集結を連絡。
		3月19日	**島民約 3000 名で陣屋を取り囲み、島外退去を文書で要求する。** 総指揮役・忌部正弘　応接役・横地官三郎　書記役・井上鰲介
		3月20日	**郡代追放　藩船で西郷港を離れる。正義党は米二俵清酒一樽をおくる。 自治組織開始　松江藩陣屋跡に会議所、総会所などの組織が置かれる。 島民による自治を開始。**
		4月13日	新政府太政官から松江藩に対し、隠岐国を松江藩預とする指令が出される。 その後、先発隊 70 名、捕手組 20 名、銃兵 50 名、増援隊 200 名など松江藩兵が順次西郷へ上陸し、緊張が高まる。
		5月９日	松江藩兵が陣屋を包囲し明け渡し要求。
		5月10日	正義党は武器を納め西郷から尼寺村に退くことを決定。 夕刻松江藩兵が砲撃開始。島民の死亡14人、負傷8人、投獄19人、逮捕6人。 藩兵が陣屋占領。自治組織は 80 日間で終わる。 (この年は閏 4 月があるので 80 日間となる)

島民による80日間の自治

発行日：
平成31年3月31日

発行：150 隠岐維新を次世代に伝える会 ／〒685-0012 島根県隠岐郡隠岐の島町東町宇屋の下７０－２
漫画：岩田廉太郎 寺西竜也／製作協力：㈱ラ・コミック 常角敏 藤原時造